

令和3年度 とくしま政策研究センター調査研究
にし阿波エシカルワーケーション推進プロジェクト



つるぎ町家賀集落「望郷の丘」

徳島県西部総合県民局

令和4年3月

にし阿波エシカルワーケーション推進プロジェクト

1 背景及び目的

(1) 「とくしま政策研究センター調査研究」におけるこれまでの取組

徳島県西部総合県民局（以下、「県民局」）では、「とくしま政策研究センター調査研究」として、令和元年度から令和2年度にかけて、世界農業遺産に認定された「傾斜地農耕システム」をエシカルの視点から分析し、その価値を次世代に継承する方策を研究してきた。

令和元年度は「にし阿波エシカル未来創造大学」として、京都大学大学院農業研究科の協力のもと、徳島県農業大学校、高知大学、立教大学の学生、地元の高校生等、県内外の若者と地元農家を対象に講演会や意見交換会を開催するとともに、農家への聞き取り調査を行い、エシカルの視点から「傾斜地農耕システム」を次世代に継承させるための方策を探った。

令和2年度は「にし阿波エシカル未来創造キャンパス」として、地元の高校4校（脇町高校、穴吹高校、つるぎ高校、池田高校）の生徒が、にし阿波地域（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）の世界農業遺産の魅力やその継承方法について、ワークショップやフィールドワーク、発表会を行い、にし阿波地域のエシカル文化を広め、継承していくための方策を探った。

これらの研究により、にし阿波地域の「傾斜地農耕システム」は、多様な農業形態と様々な立場の人々の参加、その両方によって生じる多様性があり、その多様性により、変化に対応する高いレジリエンスを持つとともに、農業生産から消費過程において、自然環境との関わり方、農業形態、働き方、地域住民との関わり方等のあらゆる側面で、他者に配慮する行動がみられることから、エシカルな価値を持つものとして評価できることが分かった。

今後の方針として、高いレジリエンスを維持していくためには、現在ある多様性を可能な限り守っていくことが大切であることから、農業者それぞれの事情に合わせたやり方で新たな農作物の栽培を行うための、農業者同士の情報の共有や行政等による支援・指導が必要である。

また、エシカルという視点から、「傾斜地農耕システム」をはじめとした、にし阿波地域の人々の暮らしや文化を高く評価することで、グローバルな価値を持つという魅力によって地域外の人々を呼び込み、その結果として地域外からのサポートを導入することが期待できる。

地域外からのサポートにより、地域に新たな多様性が生じ、にし阿波地域の持続可能な農業生産と消費のあり方を今後継承していくことが期待できる。

この両方をうまく組み合わせ、地域住民の「傾斜地農耕システム」のエシカル的な価値への理解を進めるとともに、外部からのサポートにより、持続可能な農業・生活の維持・拡大に向けた政策形成につなげていくこととした。

(2) にし阿波地域における農泊の状況

平成6年に「農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律（農山漁村余暇法）」が制定され、農家等が「農林漁業体験民宿」を開業できるようになった。

「農林漁業体験民宿」とは、農林漁業体験等を通じて、農山漁村地域ならではの自然・生活文化を体感できる宿泊施設であり、にし阿波地域は、地域独自の農法である「傾斜地農耕システム」の体験が提供できるため、「農林漁業体験民宿」の開業に適している地域であるといえる。

また、徳島県では「農林漁業体験民宿」の開業条件を、独自に緩和した「とくしま農林漁家民宿」を認定しており、この農林漁家民宿が、令和3年12月1日現在で、にし阿波地域内に39軒あり、県内で開業している農林漁家民宿の約3分の2が、にし阿波地域内に立地している。

さらに、中学生や高校生が農家に宿泊体験できる体験型教育旅行の受け入れについても、多くの農家が取り組んでおり、体験型教育旅行の受け入れを開始した平成7年は、三好市の一部（旧山城町）だけであったが、受け入れ地域が年々拡大していき、令和元年度は、にし阿波地域の2市2町に179軒が受け入れ民家として登録され、毎年3,000人・泊程度、修学旅行生を受け入れてきた。

こうしたことから、農林漁家民宿や体験型教育旅行等の「農泊（農山漁村滞在型旅行）」は、にし阿波地域の強みであるといえる重要な産業の一つに育っており、農家の収入源として、また、農村と都市部の人々との交流促進による地域活性化につながることを期待できる。

しかし、令和2年になると新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、多くの学校が修学旅行を中止や延期、行き先の変更をしたため、令和2年度のにし阿波地域における体験型教育旅行

行の受け入れ実績は、5校、481人・泊にとどまった。

また、体験型教育旅行の受け入れ家庭数は、受け入れの実施者本人が高齢者、または家族に高齢者がいるため、新型コロナウイルスの高齢者に対する重症化リスクが高いことへの懸念から、体験型教育旅行の受け入れを辞退する家庭が急増し、令和元年度に179軒あった体験型教育旅行の受け入れ家庭数は、令和3年度は39軒に減少している。



傾斜地の農地



農業体験の様子

(3) ワークেশョンの推進

にし阿波地域は、観光や農林の分野で国内外から高い評価を受けている。

観光庁が国際競争力の高い観光地域づくりを進める地域として認めた「観光圏」、農林水産省が、地域の食とそれを生み出す農林水産業を核として訪日外国人を中心とした観光客の誘致を図る地域での取組みを認定する「SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）」、国連食糧農業機関（FAO）が伝統的な「にし阿波の傾斜地農耕システム」を世界的に重要であると認めた「世界農業遺産」に認定されており、全国初の「トリプル認定」を受けた地域である。

県民局では、管内の2市2町や関係団体等と連携し、「トリプル認定」の強みを活かして、観光と農業、食等を組み合わせた滞在プログラムを作成し、国内外からの観光誘客の促進に取り組んできた。

新型コロナウイルスの感染拡大以前は、香港や台湾、米国等からのインバウンド誘客に取り組み、成果をあげてきたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、海外との往来が困難になり、外国人観光客が激減したため、観光客の回復やコロナ禍で落ち込んだ地域経済の活性化に向けた新たな取組みが必要になっている。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大により、社会経済活動は大きく変容したことから、都市部の混雑解消を図るため、企業にはテレワークの推進や休暇取得の分散化に向けた取組みが求められており、ワーク（Work）とバケーション（Vacation）を組み合わせた「ワークেশョン」や、ビジネス（Business）とレジャー（Leisure）を組み合わせた「ブレジャー」が注目されている。

にし阿波地域は、構成する2市2町すべてにコワーキングスペースやシェアオフィスが整備され、「トリプル認定」を受けた観光資源と合わせて、ワークেশョンやブレジャーが行える環境が整っており、県民局では、コロナ禍以前の平成30年度から、主に海外向けにワークেশョンの推進に取り組んできた。

令和3年度は、海外向けに取り組んできたワークেশョンの実績やノウハウを活かし、国内向けのワークেশョンに取り組むこととしている。



東みよし町 San. San. Lab



吉野川テレワークオフィス

(4) 調査研究の目的

「急傾斜地農耕システム」をはじめとした地域の人々のくらしや文化が、エシカルな価値を持つことから、農林漁家民宿での宿泊や農業体験等を取り入れた、人や環境にやさしい「エシカル」な暮らしや文化が体験できる、「にし阿波」ならではの付加価値の高いワーケーションを都市部の企業や社員等に提供することにより、コロナ禍で減少した、にし阿波地域の交流人口の拡大につなげることが期待できる。

このため、「にし阿波」ならではの付加価値の高いワーケーションを「にし阿波エシカルワーケーション」と呼ぶこととし、県民局と管内2市2町、商工団体、観光団体、DMOで構成する民官連携の「にし阿波エシカルワーケーション推進プロジェクト」(以下、「プロジェクト」)を立ち上げ、魅力的な滞在プログラムや効果的な情報発信等について調査研究することとした。

2 研究内容

(1) 農家への聞き書き調査

地元の高校生が、「徳島・にし阿波 食と農の名人」に、その技や知恵、地域に対する思いを「聞き書き」の手法を用いて取材・記録した。

◆「聞き書き」とは

話し手の言葉を録音し、一字一句すべてを書き起こしたのち、話し手の語り口で一つの文章にまとめる手法。

「聞き書き甲子園」（主催：農林水産省、文部科学省、環境省等）でも用いられている。

◆「徳島・にし阿波 食と農の名人」とは

傾斜地農耕や伝統料理等に卓越し、食と農の分野で活躍している者を徳島県が認定。

「名人」の知識・経験・技術等を次世代への継承のために指導・実演いただくとともに、情報発信に協力いただいている。

①調査対象

【聞き書き参加者】 にし阿波地域内の高等学校に在籍する生徒。

脇町高等学校 普通科 2年8名
池田高等学校 探求科 1年3名 2年3名
池田高等学校辻校 総合学科 1年5名

【話し手】 徳島・にし阿波 食と農の名人

久保田 正和 (美馬市美馬町)
西岡田 治豈 (つるぎ町貞光)
高木 一永 (つるぎ町半田)
杉平 美和 (三好市東祖谷)
木下 正雄 (東みよし町東山)
安藤 洋子 (東みよし町西庄)

②調査内容

地域を支え暮らしに根ざした農業や食文化、生物多様性の保全、地域の景観の維持、技術の継承などに携わっている方への「聞き書き」を実施し、その技や知恵、地域に対する思いを丁寧に取材・記録することにより、後世に伝えるとともに、世界農業遺産の価値の認知向上と発信を推進する。

③調査方法

高校生が、話し手の自宅を訪問し、話を聞いて記録に残す。

調査に先立ち、聞き書き取材のための研修会を実施し、インタビューの方法や準備物、文字起こし等についての事前研修を実施。また、聞き書き作品編集のため、文書整理を実施した。

講師・監修を京都大学大学院 岩男望氏他に依頼し、指導いただいた。

聞き書きの調査内容や感想について、「世界農業遺産にし阿波ユースシンポジウム」で報告し、ケーブルテレビとユーチューブで発信を行った。

さらに、聞き書き作品集を作成し配布することで、多くの人が、持続可能な社会や「にし阿波」の未来について考える契機とした。

実施内容	日程	備考
参加高校生の募集	令和3年6月～	
参加高校生の決定	7月中旬	脇町高等学校 2組 (8名) 池田高等学校 2組 (6名) 池田高等学校辻校 2組 (5名)
名人とのマッチング	7月下旬	名人6名
第1回研修会 (事前研修)	8月2日 3日 6日	池田高等学校 池田高等学校辻校 脇町高等学校
聞き書き取材	8～10月	名人自宅 6ヶ所 各2回程度
文字起こし	8～11月	
第2回研修会 (文書整理研修)	11月25日 29日 12月2日	池田高校 脇町高校 池田高校辻校
編集	12月	
レポートの提出	令和4年1月上旬	
作品集の作成	2月	
発表収録	2～3月	脇町高等学校・池田高等学校・ 池田高等学校辻校
シンポジウム配信	3月25日～	ケーブルテレビ、ユーチューブ



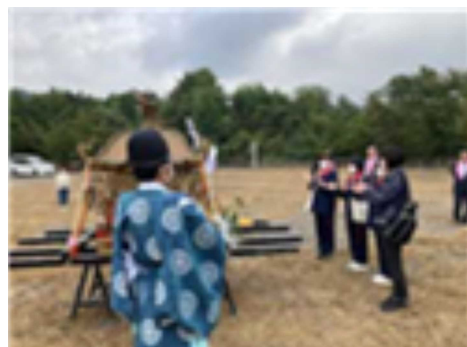
研修会



聞き書き取材



傾斜畑の見学



祭りの取材

④調査結果

【高校生の感想】

- ・ 傾斜地農業の大変さや楽しさ、すばらしさを学ぶことができた。
- ・ にし阿波の傾斜地農耕システムは私たちの誇る世界農業遺産であることを、しっかり学び、さまざまな人に魅力や特徴を発信していきたい。
- ・ 傾斜地という一見ハンディに思える農地で代々受け継がれている伝統的な技、作業効率や収穫量を増やすための工夫を知って、この農法を後世に伝えていかなくてはならないと思った。農業のすばらしさや奥深さを改めて知ることができた。
- ・ 同じ徳島に住んでいても知らなかった文化や伝統の違いを肌で感じることができた。
- ・ 伝統文化の現状を知り、文化継承の難しさを痛感した。
- ・ 民宿に、世界中の人が来ていると聞いて驚いた。
- ・ 地域のために何かをすることは、素晴らしいことで、この地区の人たちのような活動を、たくさんの人に伝えていきたいと思った。
- ・ 昔のことを過去のこととして無関心でいるのではなく、今の生活は昔の生活からずっと繋がっているのだということを忘れてはいけないと思った。
- ・ この地域の傾斜地農業に対してさらに興味がわいてきた。山の急傾斜地での農業と聞いて「大変そうだな」と思う人もいると思うが、興味を持ってくれる人がいたら嬉しい。
- ・ 雑穀はおいしいということがもっと全国に伝わって、雑穀が今、危機的状況であることも知ってほしいと思った。
- ・ 獣害駆除をして、それをジビエ料理にして提供しているということを知らなかった。聞き書きをすることで、今まで知らなかったことを知れたり、人と出会えたりすることができた。

⑤考察

調査に参加した高校生が、傾斜地農耕システムの価値に気づき、郷土愛を育むことができた。

さらに、シンポジウムでの発表の発信、作品集の作成により、伝統農業の力を広く周知し、関心を広めることができた。

移住者の増加や農業の次世代継承が待てる。

(2) プロジェクト会議の開催

世界農業遺産に認定された「傾斜地農耕システム」に代表される循環型農業や、祖谷そば、みまから等の地産地消の特産品、植物を材料に使った「かずら橋」など、「にし阿波」ならではの人や環境にやさしいエシカルな暮らしや文化を、「With・コロナ」から「アフター・コロナ」時代の新たな旅のスタイルとして期待されているワーケーションに取り入れた「にし阿波エシカルワーケーション滞在プラン」を作成するため、3回にわたりプロジェクト会議を開催した。

①第1回会議

第1回会議は、「にし阿波エシカルワーケーション」の定義や条件について協議するとともに、今後のスケジュールやプロジェクトメンバーおすすめの滞在スポットの情報提供等について協力を依頼した。

日時：令和3年7月7日（水）10：30～11：30

場所：県民局美馬庁舎 Gルーム（オンライン併用）

- 議題：1. プロジェクトチーム設置要綱について
2. プロジェクトチームの進め方について
3. おすすめ滞在スポット等の情報提供依頼について
4. 「にしアワーケーション」体験会の委託事業者の募集について

概要： 「にし阿波エシカルワーケーション」の定義について検討した結果、次の2つの条件を満たす「ワーケーション」の滞在プランを「にし阿波エシカルワーケーション」とすることとした。

1つ目の条件は、にし阿波地域内にある次のいずれかの施設を利用したワークタイムを設けること。

- ・ コワーキングスペースやシェアオフィス
- ・ ワークスペースのある宿泊施設や飲食店

2つ目の条件は、エシカル消費活動につながる体験として次のいずれかの滞在スポットをコースに入れること。

- ・ 「傾斜地農耕システム」を行っている集落の視察や農作業体験
- ・ 上記の集落での農作業や里山の保全等のボランティア活動
- ・ 剣山周辺や吉野川、穴吹川等での自然体験
- ・ 地産地消にこだわった飲食店での食事
- ・ 産直市や道の駅等での地域の特産品の購入

また、プロジェクトチームでは、上記の条件を満たす、2泊3日程度のモデルコースを10コース以上作成することを目標に設定した。

②第2回会議

第2回会議は、美馬地区と三好地区に分けて、10名程度のメンバーを集め、対面でメンバー同士が活発な意見交換を行い、ワーケーションの滞在プランを作成するためのワークショップを開催することとした。

当初9月中に開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大第5波の影響により延期し、10月に開催した。

【県民局三好庁舎】

日時：令和3年10月13日（水）

場所：県民局三好庁舎 32会議室

議題：1. 「にしアワーケーション」体験会について

（G&Cコンサルティング株式会社 美馬サテライト事業部 翠 大知 氏）

概要： 県民局地域創生観光部の令和3年度事業である「にしアワーケーション体験会」について、受託事業者であるG&Cコンサルティング株式会社の担当者から、体験会の概要や今後のスケジュール等について説明していただいた。

議題：2. ワークेशनプラン作成に関するワークショップ

概要：プロジェクトメンバー9名にG&Cコンサルティング株式会社の「にしアワー
ケーション体験会」担当者も加わり、各自が作成したワークेशनプラン案の発
表、メンバーによる意見交換を行った。

その結果、

- ・ 家族で「にし阿波」のネイチャー、カルチャー、アクティビティ満喫
- ・ 秘境のマチとソラを徹底的に楽しむプラン

など、ファミリー向け4コース、個人向け3コース、企業研修向け3コースのエシ
カルワークेशनプランを作成した。

【県民局美馬庁舎】

日時：令和3年10月15日（金）

場所：県民局美馬庁舎 中会議室

議題：1. 三好市におけるワークेशनの取組について

（株式会社あしたのチーム 人事部 部長 臼田 大輔 氏）

概要：令和2年10月から、三好市においてサテライトオフィスを活用したワーク
ेशनに取り組んでいる株式会社あしたのチームの臼田部長を招き、「三好市にお
けるワークेशनの取組について」ご講演いただいた。

<講演の概要>

ワークेशनを実施する理由として、

- ・ 多様な働き方を提供することによって、採用活動の強化につながる。
- ・ 社員の満足度が向上するとともに、生産性やエンゲージメントが向上する。
- ・ 社員にとっても休暇が取得しやすくなり、リフレッシュ効果による生産性の向
上が期待できる。

ことがあげられる。

次に、ワークेशन制度の内容は、在籍期間5年が経過するごとに5日間のリ
フレッシュ休暇と旅費補助最大10万円を支給しているが、サテライトオフィスで
ワークेशनを行う場合には、旅費補助として倍額の20万円まで支給する。

この制度を活用する場合は、ワークेशन中に2日以上サテライトオフィス
における勤務が条件となっている。

これまでに、社員2名がワークेशनの制度を利用しており、利用者からは、

- ・ 業務の調整がしやすく、長期の休みが取りやすい。
- ・ サテライトオフィスで勤務するため、休暇と仕事の線引きがしやすかった。
- ・ セキュリティ面でも安心して仕事できた。
- ・ ワークेशनであれば、通常の旅行よりも長期滞在が可能になるため、

中長期滞在に適したレンタカーや宿泊などの割引、観光地巡りだけではなく、
地元の暮らしや文化を体感できる体験が欲しい。

との意見や要望があった。

議題：2. ワークेशनプラン作成に関するワークショップ

概要：プロジェクトメンバー11名を2班に分け、各自が作成したワークेशनプラ
ン案の発表、メンバーによる意見交換を行った。

その結果、

- ・ 仮想帰郷～とくしまに田舎があったらこんな感じ～
- ・ にし阿波の傾斜地農業体験でチームビルディング

など、ファミリー向け7コース、個人向け5コース、企業研修向け4コースのエシ
カルワークेशनプランを作成した。

<プロジェクトメンバーからの意見>

- ・ ファミリー向けのツアーは、「パパは仕事」、「ママと子どもは遊び」で設定して
いる例が多いが、共働き世帯が増えている状況を考慮して、柔軟な表記にした方が
良いのではないか。

- ・ ファミリー向けは、親のどちらかが何時間か働くことになり、家族みんなで旅行（バケーション）を楽しむことができないため、ハードルが高いのではないかな。
- ・ ワークেশョンを推進していくためには、企業の理解が必要だと思う。企業にワークেশョンの導入を売り込む場合は、あしたのチームの担当者の話にもあったように、「忙しい社員の有給休暇を取りやすくするため、ワークেশョンを導入してみても」、「優秀な社員の長期休暇による離脱を防ぐため、ワークেশョンを導入してみても」等のメリットを伝えることで、企業に刺さるのではないかな。
- ・ 2泊3日の設定でワークと観光、体験も楽しめるようにと考えると、どうしても行程に無理が出てきてしまう。仕事もしながら通常よりも長期に滞在して、その地域の観光や様々な体験を楽しむというのが理想である。
- ・ ワークの場所が課題。あしたのチームのようにサテライトオフィスで仕事できれば良いが、コワーキングスペースや宿泊施設等で仕事をする場合は、セキュリティ面の不安や、仕事と休暇の線引きが難しいといった課題がある。

③第3回会議

第3回会議では、第2回会議のワークショップで作成した後、事務局で再編・整理した11のモデルコース及びモデルコースを掲載するワークেশョンのパンフレットのデザインや説明文等について意見交換をし、磨き上げを行った。

また、県の令和4年度当初予算におけるワークেশョン関連事業を紹介し、意見交換を行うとともに、「にし阿波エシカルワークেশョン」に関するアンケート調査結果の説明や3月に開催するワークেশョンセミナーの案内を行った。

日時：令和4年2月8日（火）10：00～11：00

場所：県民局美馬庁舎 202会議室（オンライン併用）

- 議題：1. 「徳島・にし阿波」ワークেশョンパンフレットについて
2. 令和4年度予算におけるワークেশョン関連事業について
3. 「にし阿波エシカルワークেশョン」に関するアンケート結果について
4. にし阿波協働センター「ワークেশョンセミナー」について

概要： 「徳島・にし阿波」ワークেশョンパンフレットの作成にあたり、プロジェクトメンバーから記載内容やレイアウト等について意見をいただいた。

<プロジェクトメンバーからの意見>

- ・ ターゲットという記載は受け入れる側の視点なので、パンフレットを手にとってワークেশョンで来る人の側の視点ではないので、パンフレットに記載するのなら書き方を変えた方が良い。
- ・ 各モデルコースに共通していることだが、観光や体験、食事等のバケーションの間にワークの時間が入っている。観光や体験、食事等と同じ書き方では、ワークেশョンのプランということがわかりにくいので、ワークの時間を目立つようにした方が良い。
- ・ レンタカーやマイカーで移動する滞在プラン、列車やバス等の公共交通機関で移動するモデルコースもあるので、見出しに主な交通手段を掲載した方が良い。
- ・ 宿泊施設と飲食店の一覧は、モデルコースのページから参照できるようにした方がわかりやすい。



第2回プロジェクト会議



(株)あしたのチーム人事担当者による先進事例発表

(3) 「にし阿波エシカルワーケーション」に関するアンケート調査

にし阿波のエシカルな暮らしや文化を活かした「にし阿波エシカルワーケーション滞在プラン」の企画及び都市部の企業への効果的な情報発信を行う参考にするため、東京や大阪等大都市圏の企業や社員等に対し、ワーケーションやエシカル消費に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

東京都または京阪神に所在する企業及びその企業の社員、個人事業主(フリーランスを含む)

内 訳	東京都内	京阪神	計
企業、社員のいる個人事業主(以下、「企業等」)	12社	11社	23社
企業の社員、団体職員、フリーランス(以下、「社員等」)	73人	36人	109人

②調査期間

令和3年12月16日～12月27日

③調査方法

コロナ禍のため、対面でのアンケートは行わず、インターネット上のアンケートフォームを活用し、オンラインで実施するとともに、在宅勤務等のリモートワークを導入している企業を中心に幅広い業種の企業等にダイレクトメール等でアンケートへの協力を呼びかけた。

④調査内容

【企業等】

㊦ワーケーションの取組状況

- ・ ワーケーションの導入の有無、導入していない場合は今後の導入予定の有無
- ・ 導入している又は導入を予定している場合、観光庁が提唱する5つの実施形態(表1)のどれに該当するか
- ・ ワーケーションを行う社員に対する支援

(表1) 観光庁が提唱する5つのワーケーションの実施形態

ワーケーション	福利厚生型		有給休暇を活用してリゾートや観光地等でテレワークを行う
	業務型	地域課題解決型	地域関係者との交流を通じて、地域課題解決策を共に考える
		合宿型	場所を変え、職場のメンバーと議論を交わす
		サテライトオフィス型	サテライトオフィスやシェアオフィスでの勤務
ブレジャー	業務型		出張先等で滞在を延長する等により余暇を楽しむ

㊧エシカル消費への取組状況、エシカルワーケーションへの興味

- ・ エシカル消費に対する認識の有無
- ・ エシカル消費の取組状況
- ・ エシカルをテーマにしたワーケーションに対する興味の有無

【社員等】

㊦ワーケーションの取組状況

- ・ 勤務先のワーケーション制度の有無、ある場合はワーケーションの経験の有無、ワーケーションの行き先等
- ・ 勤務先にワーケーション制度ができれば、活用する意向の有無、ワーケーション制度を活用する場合はどのような実施形態(表1)を行ってみたいか等

- ④ エシカル消費への取組状況、エシカルワーケーションへの興味
- ・ エシカル消費の実践の有無
 - ・ 過疎地域への旅行や消費がエシカル消費につながることの認識
 - ・ にし阿波でエシカル消費につながるワーケーション滞在プランがある場合、利用してみたいか等

⑤ 調査結果

【企業経営者等】

㊦ ワーケーションの取組状況

- ・ 令和3年12月時点で、ワーケーションを導入している企業は、23社中4社で17.4%に止まっているが、導入していない企業のうち、ワーケーションの導入を予定または検討している企業が19社中11社（約58%）あり、今後ワーケーションを導入する企業が増えていくものと見込まれる。
- ・ ワーケーションを導入している企業4社のワーケーションの実施形態は、地域課題解決型が2社、合宿型、サテライトオフィス型、その他の実施形態が1社ずつであり、このうち、地域課題解決型とサテライトオフィス型の複数の実施形態を導入している企業が1社あった。
- ・ ワーケーションの導入を予定または検討している企業11社のうち、地域課題解決型の導入を予定または検討している企業が8社と最も多く、次いで合宿型とサテライトオフィス型が5社ずつとなっていることから、業務型のワーケーションの導入を予定または検討している企業が多い。
- ・ 既にワーケーションを導入している企業のうち、ワーケーションにかかる交通費、宿泊費等の費用の助成やパソコン等の機材の貸し出し等の支援を行っている企業は1社（25%）であった。また、ワーケーションの導入を予定または検討している企業では費用の助成等の支援を検討している企業が11社中7社（約64%）であった。

④ エシカル消費への取組状況、エシカルワーケーションへの興味

- ・ アンケートに回答した企業の経営者や役員で、エシカル消費という言葉を知ることがある企業が23社中16社（約70%）あり、このうち、積極的にエシカル消費に取り組んでいる企業が4社、機会があれば取り組んでいるという企業が8社となっており、企業の役員等がエシカル消費を知って、理解することで、企業ぐるみのエシカル消費活動につながっている。
- ・ エシカル消費をテーマにしたワーケーションに興味があると答えた企業は23社中14社（約61%）で、このうち、「傾斜地農耕システム」をはじめとした、「にし阿波」のエシカルな暮らしや文化が体験できるワーケーション滞在プランについて、社員にぜひ勧めたいと答えた企業が1社、興味のある社員がいれば勧めたいが12社あった。

【会社員等個人】

㊦ ワーケーションの取組状況

- ・ 勤務先にワーケーションの制度があると答えた人が8名で、ワーケーションをしたことがある人は21名であった。21名中13名は、勤務先にワーケーションの制度がないため、自主的にワーケーションを行っている。
- ・ ワーケーションを行った21名の旅行形態としては、個人旅行が12名（約57%）、会社の上司や同僚等のグループ旅行が8名（約38%）、家族旅行が1名（約5%）であった。
- ・ ワーケーションを行ったことのない人88名のうちで、会社にワーケーション制度ができれば利用したい人が68名（約77%）であった。
- ・ 会社にワーケーション制度ができれば利用したい人（68名）のうち、個人で旅行したい人は34名（50%）、家族で旅行したい人は18名（約26%）、会社の同僚等のグループで旅行したい人は16名（約24%）であった。
- ・ ワーケーションで行きたい地域は、自然が豊かで温泉やマリンスポーツ、スキー等のアクティビティが充実している沖縄県や北海道等が人気であった。

④ エシカル消費への取組状況、エシカルワーケーションへの興味

- ・ アンケートに回答した会社員等109名のうち、エシカル消費を積極的に実践している人が8名、できる限り実践しているが25名、機会があれば実践したいが46名で、合計79名、約72%の人がエシカル消費に取り組みたいと考えている。
- ・ 都市部の方が過疎地域に旅行して、宿泊や土産物を買うことが、過疎地域への応援消費としてエシカル消費に当たることを知っている人が61名（約56%）であった。
- ・ エシカル消費につながるのであれば、過疎地域へ観光やワーケーションで旅行したいかについては、積極的に旅行したいが25名（約23%）、温泉や食事等の観光地としての魅力があれば旅行したいが72名（約66%）であった。
- ・ 傾斜地農耕システムをはじめ、にし阿波ならではのエシカルな暮らしや文化を体験してみたいかについては、33名（約30%）が是非体験してみたい、66名（約61%）が機会があれば体験したいという結果であり、合計99名（約91%）の人が体験してみたいとの回答であった。

【まとめ】

- ・ 今回、アンケートに協力していただいた企業や個人事業主等の業種は、学術研究、専門・技術サービス業、情報通信業の順に第3次産業が多かった。
- ・ 総務省の令和3年度情報通信白書のテレワークの実施状況によると、情報通信業が約56%と最も高く、次いで学術研究、専門・技術サービス業が約43%となっており、テレワークの実施率の高い業種からの回答が多いことから、このアンケート結果は、ワーケーションを行っている、あるいは、ワーケーションが導入できる可能性の高い業種の企業や社員の状況を反映したものであると考えられる。
- ・ 令和2年7月に政府は「観光戦略実行推進会議」を開催し、リゾート地などで余暇を楽しみながら仕事もするワーケーションを推進する方針を決めた。これに伴い、大都市部を中心にワーケーションを導入する企業が増えている。
- ・ このアンケート結果では、ワーケーションの制度を導入している企業は17%程度だが、ワーケーション未導入企業のうち、約58%の企業がワーケーション制度の導入を予定または検討しており、政府の方針に従い、今後もワーケーションを導入する企業が増えていくものと見込まれる。
- ・ 既にワーケーションに取り組んでいる企業が行っているワーケーションのタイプとワーケーションの導入を予定または検討している企業の、導入を予定または検討しているワーケーションのタイプの傾向は、業務型の地域課題解決型が最も多く、次いで同じく業務型のサテライトオフィス型、合宿型となっており、業務型を推進している企業が多かった。また、約61%の企業がエシカル消費をテーマにしたワーケーションに興味があると答えた。
- ・ 一方、会社員やフリーランス等の働いている人へのアンケートでは、希望する実施形態は福利厚生型とサテライトオフィス型が同数で最も多く、次いでレジャーとなっている。行きたい旅行形態は個人旅行が最も多く、次いで家族で、社内グループが最も少なかった。また、ワーケーションをしたい地域は、沖縄県や北海道等のリゾート地が人気であった。会社の経営者や人事担当者等は、地方での仕事や仕事のスキルアップ、チームビルディングにつながる研修等のワークを重視し、社員やフリーランス等の働いている人はレジャーを重視する傾向がうかがえた。
- ・ このため、ワーケーションの滞在プラン作成においては、企業向けと個人向け、ファミリー向けに分け、企業向けは課題解決型または合宿型、個人やファミリー向けは福利厚生型の滞在プランにすれば、ワーケーションでの来訪客の増加につながると考えられる。
- ・ アンケートに答えた企業の約61%が、エシカル消費に貢献できるワーケーションや人材育成合宿等に興味があると答え、社員等の働いている人へのアンケートでは、エシカル消費の応援消費につながる過疎地域への旅行を、積極的にしてみたいと答えた人と、観光地として魅力があれば行きたいと答えた人が合わせて約89%となっており、エシカルをテーマにしたワーケーションは、企業にとっても働いている人にとっても興味を湧く魅力的な滞在プログラムであると考えられる。

(4) にしアワーケーション体験会

体験会は、全4回の開催を予定していたが、11月に2回実施した後、新型コロナウイルス・オミクロン株の感染拡大により実施方法を変更し、3月にオンラインで実施した。

1回目と2回目は、都市部の企業の社員グループや個人事業主のグループを招き、観光や体験をしながら、市町の職員や地元企業と、まちづくりや地場製品の販路拡大等について一緒に検討するワークショップを各地で実施する「課題解決型ワーケーション」の体験会を開催した。

①第1回「課題解決型ワーケーション①」

日程：令和3年11月12日（金）～14日（日）

参加者：都市部企業社員等5名（東京都内の企業1名、大阪府内の企業4名）

行程：11月12日（金）

13:10～13:30 オリエンテーション（県民局三好庁舎）

13:30～14:15 酒蔵見学（三好市：三芳菊酒造株式会社）

15:00～17:00 テレワーク（三好市：シモノロ・パーマネント）

11月13日（土）

10:00～11:30 地元企業と三好市職員との意見交換会（三好市：ホテルイレブン）

13:00～17:00 祖谷のかずら橋などの大歩危・祖谷観光

11月14日（日）

10:30～11:30 観光団体と美馬市職員との意見交換会（美馬市：森邸）

12:30～15:00 うだつの町並み見学、藍染め体験

②第2回「課題解決型ワーケーション②」

日程：令和3年11月24日（水）～26日（金）

参加者：都市部企業役員等5名（全員東京都内の企業）

行程：11月24日（水）

13:10～13:30 オリエンテーション（美馬市：森邸）

13:30～15:00 うだつの町並み観光

15:00～17:00 コワーキングスペースにおけるテレワーク（美馬市：森邸）

17:00～18:00 地域事業者と美馬市職員との意見交換会（美馬市：ADL I V）

11月25日（木）

9:30～10:30 藍染め体験（美馬市観光交流センター 藍染工房）

11:00～12:00 美馬市美馬町：Earthship MIMA（アースシップ ミマ）視察

14:00～15:00 つるぎ町二層うだつの町並み観光

15:30～16:30 つるぎ町職員との意見交換会（つるぎ町：さとやまオフィス）

11月26日（金）

9:30～14:00 祖谷のかずら橋などの大歩危・祖谷観光

<参加者の感想や意見>

- ・ 古民家を改装した施設が、とても新しくステキだった。
- ・ 観光で来訪するよりも、ワーケーションとして来訪する方が、地域の方と交流ができ、地域への愛着・再訪意識が高まった。
- ・ 機会があれば、またにし阿波地域でワーケーションをしたい。



大歩危峡でのワーケーション



三好市池田町シモノロパーマネントでのワーケーション

3 プロジェクトのふりかえり

本プロジェクトでは、令和元年度の「にし阿波エシカル未来創造大学」、令和2年度の「にし阿波エシカル未来創造キャンパス」において調査研究した「傾斜地農耕システム」の価値をエシカルの視点から次世代に継承するための具体的な方策について検討を行った。

まず、地元高校のエシカルクラブの生徒に、傾斜地農耕システムを行う「徳島・にし阿波食と農の名人」に、その技や知恵、地域に対する思いを「聞き書き」の手法を用いて取材・記録する聞き書き調査を行ってもらった。

聞き書き調査に参加した高校生は、傾斜地農耕システムの価値に気づき、郷土愛がより強くなるとともに、「世界農業遺産にし阿波ユースシンポジウム」での発表、作品集の作成を行い、自らが県内外の人々に伝統農業の力を広く発信することで、傾斜地農耕システムの次世代継承に向けた意識醸成を図ることができた。

また、世界農業遺産に認定された循環型農業の「傾斜地農耕システム」や、祖谷そば、みまから等の地産地消の特産品、植物を材料に使った、かずら橋など、人や環境にやさしい、にし阿波の人々の暮らしや文化は、エシカルの視点から高く評価できるとともに、グローバルな価値を持つことから、その魅力を活かして、都市生活者をはじめ、地域外の人々を呼び込み、地域活性化につなげることができると考えられる。

このため、コロナ禍において、新しい旅のスタイルとして注目されているワーケーションに着目し、地域外から人を呼び込む手段として、エシカルな価値を持つ、にし阿波ならではの人の暮らしや文化をテーマにしたワーケーションについて検討する、民官連携のプロジェクトチームを立ち上げた。

プロジェクトでは、「傾斜地農耕システム」の農作業体験や剣山登山、吉野川、穴吹川等での自然体験、地産地消の飲食店での食事、産直市や道の駅での地域の特産品の購入等、エシカル消費の応援消費につながる滞在スポットをリストアップし、モデルコースを作成するとともに、先進事例の調査や都市部の企業や社員等へのアンケート調査に取り組んだ。

まず、先進事例の調査として、にし阿波地域でワーケーションに取り組んでいる「株式会社あしたのチーム」の人事担当者に、プロジェクトチーム会議の議題の中で事例発表をしていただいた。

事例発表では、ワーケーションのメリットとして、休暇が十分にとれない忙しい社員の休暇取得の促進や、休暇取得によるリフレッシュ効果、モチベーションの向上、優秀な人材の求人におけるPRポイントになる等、今後のワーケーション事業の展開の参考になる話をいただいた。

次に、都市部の企業や社員等に対するアンケート調査を行った。

調査の結果、ワーケーションの制度を導入している企業は17%程度だが、ワーケーション未導入企業の約58%がワーケーション制度の導入を予定または検討しており、今後ワーケーションを導入する企業が増えていくものと見込まれることが分かった。

また、エシカルをテーマにしたワーケーションへの関心は、アンケートに答えた企業の約61%が、エシカル消費に貢献できるワーケーションや人材育成合宿等に興味があると答え、社員等では、エシカル消費の応援消費につながる過疎地域への旅行を、積極的にしてみたいと観光地として魅力があれば行きたいと答えた人の合計が約89%となっており、エシカルをテーマにしたワーケーションは、企業にとっても働いている人にとっても魅力のある滞在プログラムであり、ワーケーションでにし阿波地域に訪れた人や企業が、リピーターになることで、「傾斜地農耕システム」の地域外からのサポーターになり得ると考えられる。

先進事例の研究や都市部の企業等へのアンケート調査の結果を踏まえ、プロジェクトチーム会議で、ワーケーションのモデルコースづくりのワークショップを行った。

美馬市脇町や三好市池田町、つるぎ町には、観光スポットである「うだつの町並み」があり、その町並みの中や周辺に、古民家等を活用したコワーキングスペースが整備されていることから、各地の「うだつの町並み」をワーケーションの起点としてモデルコース作りに取り組んだ。

また、にし阿波地域の「傾斜地農耕システム」は、固定種（在来種）の野菜を育てて、その実や葉を食べ、余った野菜は、産直市等で販売して、残ったその野菜の種や種芋等を次の種まきシーズンまで保管して、再び種をまいて収穫することに加え、秋に刈り取ったカヤヤスキを使った「コエグロ」で肥料を作っており、F1種や化学肥料、農薬を極力使わない循環型農業であるため、自然との共生が図られている。

このため、「傾斜地農耕システム」の農作業を体験したり、「傾斜地農耕システム」で作られ

た野菜や穀物を調理して食べることで、エシカルの学びにもつながることから、「にし阿波エシカルワーケーション滞在プログラム」のモデルコース作成にあたっては、農林漁家民宿での農泊や農業体験をできる限り取り入れることにした。

また、吉野川でのラフティングやリバートレッキング、剣山登山など、大自然の中で体を動かすアウトドアスポーツやレジャーは、その体験を通じて、参加者に自然を大切にする意識を醸成することができ、エシカル消費の促進につながることから、「にし阿波エシカルワーケーション滞在プログラム」のモデルコースに、できる限り多くのアウトドアスポーツやレジャーを組み込んだ。

さらに、にし阿波地域には、化石燃料に頼らない、国内でも先進的な脱炭素化の取り組みを行っている宿泊施設が2軒ある。

まず1軒目は、三好市池田町の山間部にあった廃校（馬場小学校）をリノベーションして、令和3年6月に開業した宿泊・研修施設「ウマバ・スクールコテージ」であり、この施設を活用し、産学官が連携し、太陽光発電と蓄電池、電気自動車（EV）を組み合わせた環境配慮型のワーケーションモデルの創出に取り組んでいる。

2軒目は、令和2年5月に美馬市美馬町に開業したゲストハウス「Earthship M I M A（アースシップ ミマ）」、建築資材として古タイヤや空き瓶、空き缶等の不要品を活用し、電気は太陽光、水道は雨水といった自然エネルギーで賄うことができるアメリカ人建築家マイケル・レイノルズ氏が考案した「アースシップ」と呼ばれるオフグリッドハウスで、日本国内では初めて建築された宿泊施設である。

この2施設を泊まるのがエシカル消費の学びや実践につながることから、にし阿波エシカルワーケーション滞在プログラムのモデルコースの宿泊先に組み込んだ。

以上により、プロジェクト会議における、メンバーからの提案や意見等を踏まえ、世界遺産に認定された、にし阿波独自の伝統的な循環型農業「傾斜地農耕システム」の農作業や料理等の暮らし体験に加え、大自然の中で体を動かすアウトドアスポーツやレジャー、先進的な脱炭素化の取り組みを行っている宿泊施設等、自然とのふれあいや脱炭素化など幅広いテーマで、エシカル消費の促進につながる11のモデルコースを作成することができた。



ウマバ・スクールコテージ



Earthship M I M A



吉野川ラフティング



剣山登山

4 今後の展開

令和2年に入ると新型コロナウイルスの感染拡大により、外国人観光客は来日できなくなり、緊急事態宣言の発令等による都道府県をまたぐ移動が制限される等により、農林漁家民宿の宿泊客は大幅に減少するとともに、国内の多くの学校が、修学旅行を中止、延期、行き先の変更をしたため、体験型教育旅行の受け入れも大幅に減少している。

また、体験型教育旅行の長期的な課題として、日本国内全体の少子化による需要の減少があげられる。日本の年少（15歳未満）人口は、1982年から減少しており、国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の将来推計人口（平成29年推計）」によると、今後も減少は続いていくものと見込まれており、体験型教育旅行に代わる農泊の需要開拓が必要になっている。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、人口密度の高い都心部への出勤を避け、業務の効率化や、通勤に伴うストレスの軽減等につながる、在宅勤務やサテライトオフィスによるリモートワークに取り組む企業や個人事業主等が増加しており、さらに、リモートワークと休暇を組み合わせ、社員等の休暇取得の促進につながる新しい働き方である「ワーケーション」の導入する企業も増加している。

今後に向けては、「傾斜地農耕システム」をはじめとした、にし阿波のエシカルな田舎暮らしが体験できるモデルコースを掲載した「にし阿波エシカルワーケーション」のパンフレットを作成し、都市部の企業に配布する、電子データを県のホームページに掲載する等により、全国に情報発信することで、「にし阿波エシカルワーケーション」を、より多くの都市部の企業や人々に体験していただくよう取り組む。

こうした取組みにより、過疎地域での応援消費の拡大、にし阿波のエシカルな暮らしや文化の体験を通じたエシカル消費の普及啓発につなげるとともに、「にし阿波エシカルワーケーション」体験者に、体験後も「にし阿波」に関心を持ってもらうことで、関係人口が増加することにより、地域外のサポーターの増加につなげる。

さらに、「傾斜地農耕システム」をはじめとしたエシカルな価値を持つ、にし阿波の田舎暮らしに関心を持つ都市部の人や企業が増加することにより、にし阿波地域の若者、住民にもその価値を改めて認識してもらい、地域活性化や次世代継承につなげていく。

(参考文献)

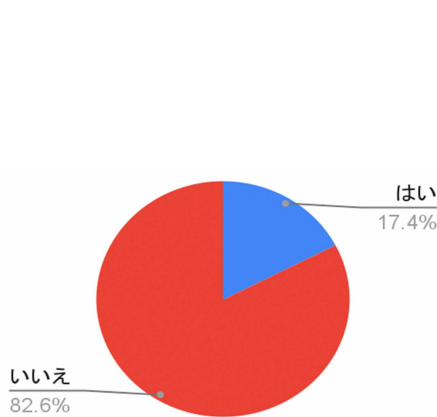
- ・徳島県西部総合県民局(2019)、令和元年度とくしま政策研究センター調査研究「にし阿波エシカル未来創造大学～にし阿波のエシカル文化を未来へ、そして世界へ～」
- ・徳島県西部総合県民局(2020)、令和2年度とくしま政策研究センター調査研究「にし阿波エシカル未来創造キャンパス」
- ・観光庁(2021)。「新たな旅のスタイル」ワーケーション & ブレジャー受入地域向けパンフレット
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/tourist-spot/>(参照 2021/12/10)
- ・一般社団法人そらの郷(2021)。「修学旅行用「そらの郷山里物語2021」」パンフレット
<https://nishi-awa.jp/soranosato/news/65.php> (参照 2021/12/10)
- ・国立社会保障・人口問題研究所(2017)、日本の将来推計人口(平成29年推計)
https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/pp_zenkoku2017.asp(参照 2021/12/20)
- ・徳島県(2019)、エシカル消費について
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/kurashi/shohiseikatsu/5025767/>(参照2021/12/20)
- ・総務省(2021)、令和3年版 情報通信白書「テレワークの実施状況」
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd123410.html>(参照2022/2/1)

資料

「にし阿波エシカルワーケーション」に関するアンケート

1. 企業向けアンケートの結果

問1 貴社ではワーケーション制度を導入していますか。

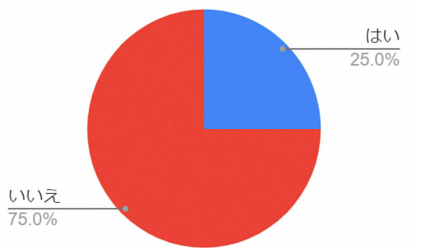


産業分類別	はい	いいえ
E 製造業	0	1
G 情報通信業	1	3
H 運輸業、郵便業	0	1
L 学術研究、専門・技術サービス業	1	8
N 生活関連サービス業、娯楽業	1	2
O 教育、学習支援業	0	1
R サービス業 (他に分類されないもの)	1	3
計	4	19

問2 (問1で「はい」と答えた企業等)貴社で取り入れているワーケーションのタイプについて教えて下さい。

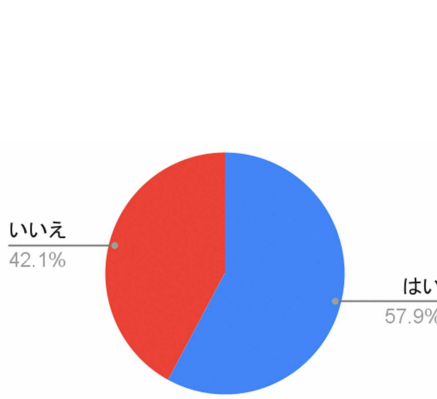
- ①福利厚生型 0社
- ②地域課題解決型 2社
- ③合宿 1社
- ④サテライトオフィス型 1社
- ⑤ブレジャー 0社
- ⑥その他 1社 (フレックスタイム、フレックスプレイス)

問3 (問1で「はい」と答えた企業等)社員がワーケーションやテレワークを行う場合、助成制度を実施もしくは導入を検討していますか。



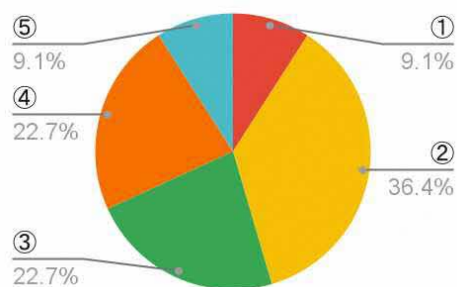
はい 1社
いいえ 3社

問4 (問1で「いいえ」と答えた企業等)貴社では、ワーケーション制度の導入を予定または検討していますか？



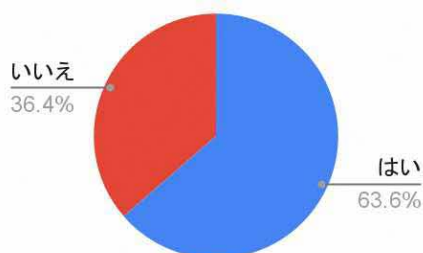
産業分類別	はい	いいえ
E 製造業	0	1
G 情報通信業	1	2
H 運輸業、郵便業	1	0
L 学術研究、専門・技術サービス業	6	2
N 生活関連サービス業、娯楽業	1	1
O 教育、学習支援業	0	1
R サービス業 (他に分類されないもの)	2	1
計	11	8

問5 (問4で「はい」と答えた企業等)どのようなタイプのワーケーションの導入を予定または検討していますか。(複数回答可)



- | | |
|-------------|----|
| ①福利厚生型 | 2社 |
| ②地域課題解決型 | 8社 |
| ③合宿 | 5社 |
| ④サテライトオフィス型 | 5社 |
| ⑤ブレジャー | 2社 |

問6 (問4で「はい」と答えた企業等)社員がワーケーションやテレワークを行う場合、助成制度の導入を検討していますか。



- | | |
|-----|----|
| はい | 7社 |
| いいえ | 4社 |

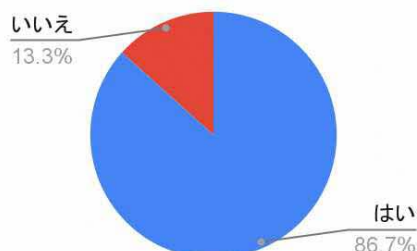
問7 (問3で「はい」と答えた企業等)現在実施している助成制度の内容を教えてください。(複数選択可)

- | | |
|---------------------------------|----|
| ①交通費や宿泊費等の金銭に対する一部補助 | 1社 |
| ②交通費や宿泊費等の金銭に対する全額補助 | 1社 |
| ③ノートパソコン貸出やポケット Wi-Fi 貸出等、物品的補助 | 1社 |
| ④フレックスタイム制度の導入等労務的補助 | 1社 |

問8 (問6で「はい」と答えた企業等)現在検討をしている助成制度の内容を教えてください。(複数選択可)

- | | |
|---------------------------------|----|
| ①交通費や宿泊費等の金銭に対する一部補助 | 5社 |
| ②交通費や宿泊費等の金銭に対する全額補助 | 3社 |
| ③ノートパソコン貸出やポケット Wi-Fi 貸出等、物品的補助 | 2社 |
| ④フレックスタイム制度の導入等労務的補助 | 2社 |

問9 社会貢献や人材育成、チームビルディング等を目的とした地域課題解決型や合宿型のワーケーションを行う場合、徳島県内は対象となりますか。

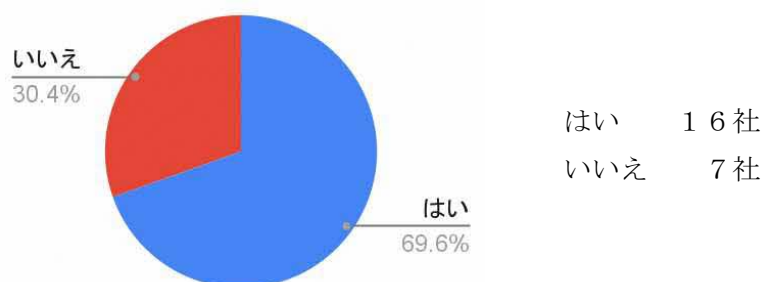


- | | |
|-----|-----|
| はい | 13社 |
| いいえ | 2社 |

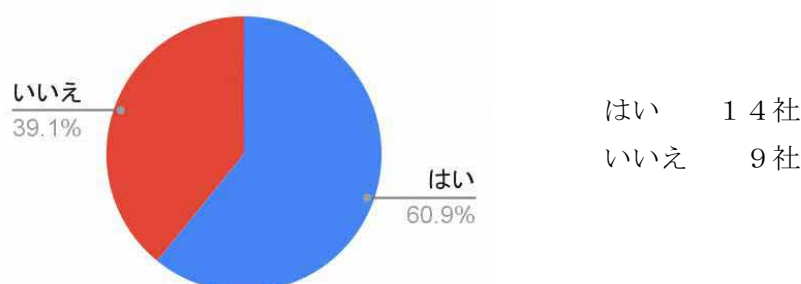
問10 徳島県内が対象とならない理由

- ・東京におり、物理的に遠いため。
- ・地元の県内で地域課題解決型ワーケーションを実施しているため。

問 11 「エシカル消費」というキーワードは、今までに聞いたことがありますか。



問 12 エシカル消費に貢献できるワーケーションや人材育成合宿等がある場合、興味がありますか。



問 13 そのように考えた理由についてご教示ください。

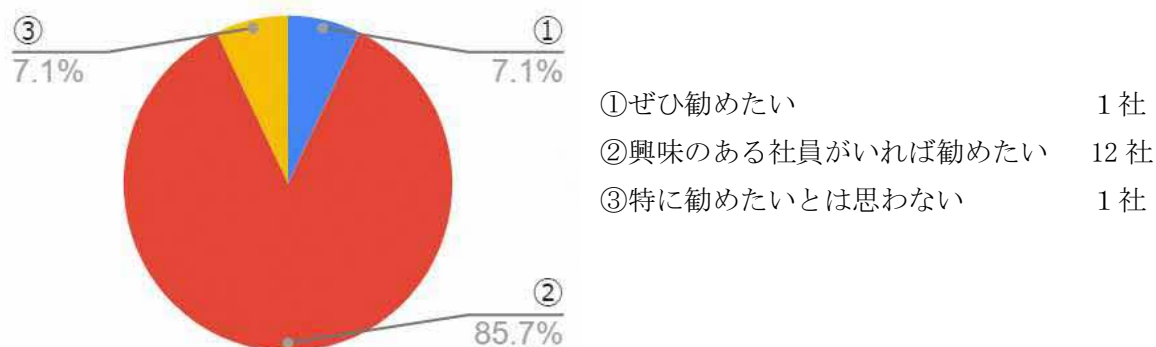
(問 12 で「はい」と回答した企業等)

- ・自然環境に考慮した生活を実践したいが、何が環境より良い事なのか、何が大切なかを理解するための知識を深めるために必要と考えている。
- ・当社が「社会問題の解決」「持続可能な社会」「幸福度向上」というビジョンを掲げているから。
- ・エシカル消費については個人としても企業代表としても取り組んでいくべき内容と理解はしているが、なかなか機会が無い為、そういった機会があれば検討したい。
- ・社会貢献・地域貢献は、社会人としての大事な使命の一つだから。
- ・企業として地域社会に貢献できる可能性があるため。
- ・やらなければいけないと思いながら、中々実行できていないので、こちらをきっかけに始めたい。
- ・現在、それを事業化し消費者の方々に支援いただいているため。
- ・エシカル消費は今後絶対的に必要なものになるから。

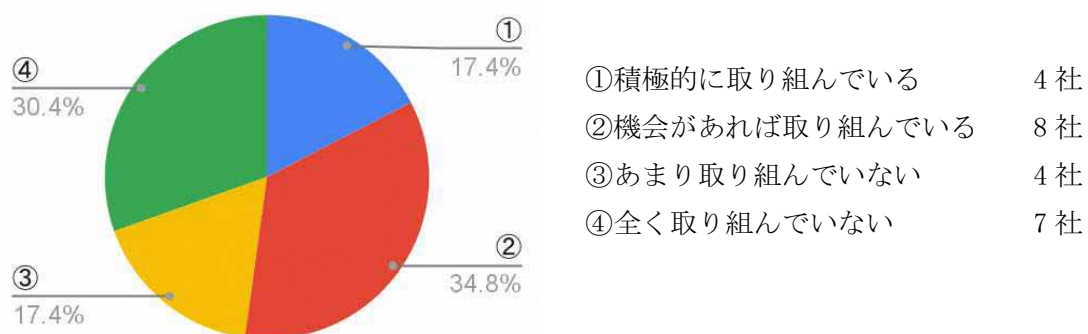
(問 12 で「いいえ」と回答した企業等)

- ・エシカル消費自体はいいものだと感じるがまだ興味をそこまで抱いていないため。
- ・まだどのようなものかわからないため。
- ・社員教育、経営方針浸透、モチベーションアップを合宿の目的にしており、エシカル消費と当社の合宿目的が必ずしも連動しないため。
- ・現在の方針として、売り上げ向上による安定した経営基盤を整えることを優先させているため。
- ・人材がママなので、おうちを空けるのが困難。
- ・エシカル消費にどのような効果があるのか見込めないから。

問 14 (問 12 で「はい」と答えた企業等) エシカル消費に貢献できる、にし阿波の農業や生活体験を活用したワーケーションや人材育成合宿等を社員に勧めたいですか。

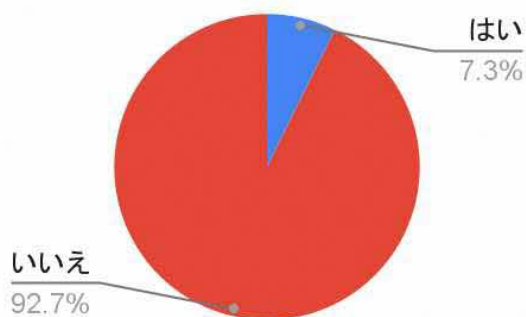


問 15 エシカル消費に配慮した事業活動や社員へのエシカル消費の意識啓発など、組織的にエシカル消費の推進に取り組んでいますか。



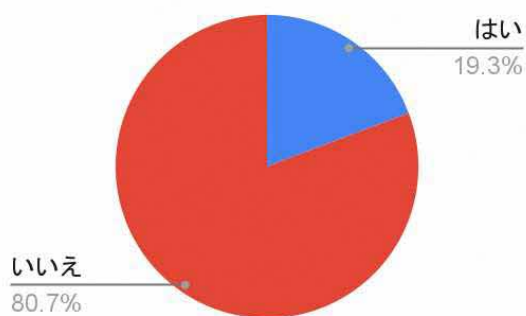
2. 個人向けアンケートの結果

問1 勤務先にワーケーションの制度がありますか。



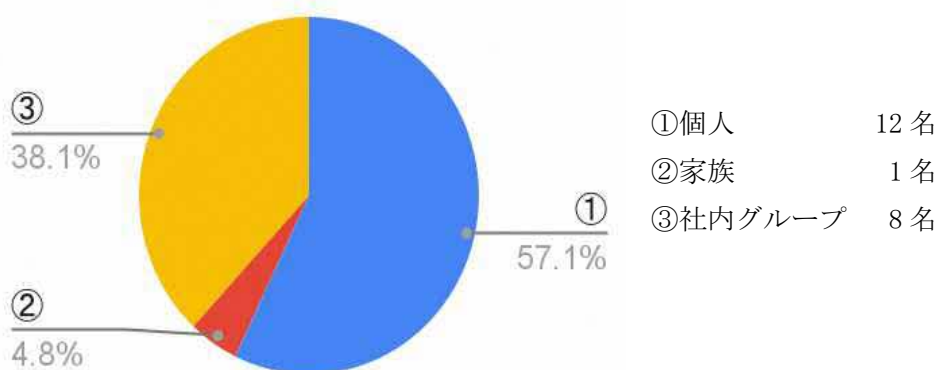
産業分類別	はい	いいえ
E 製造業	0	8
G 情報通信業	3	10
H 運輸業、郵便業	0	1
I 卸売業・小売業	0	6
J 金融業、保険業	0	8
K 不動産業、物品賃貸業	1	0
L 学術研究、専門・技術サービス業	2	28
N 生活関連サービス業、娯楽業	2	9
O 教育、学習支援業	0	5
R サービス業 (他に分類されないもの)	0	26
計	8	101

問2 ワーケーションをしたことがありますか。

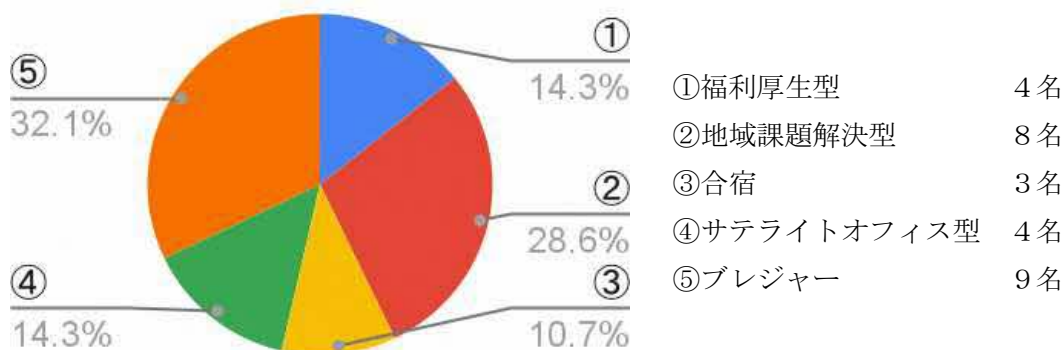


産業分類別	はい	いいえ
E 製造業	0	8
G 情報通信業	3	10
H 運輸業、郵便業	0	1
I 卸売業・小売業	0	6
J 金融業、保険業	0	8
K 不動産業、物品賃貸業	1	0
L 学術研究、専門・技術サービス業	11	19
N 生活関連サービス業、娯楽業	3	8
O 教育、学習支援業	2	3
R サービス業 (他に分類されないもの)	1	25
計	21	88

問3 (問2で「はい」と答えた人)どのようなタイプのワーケーションを行いましたか。



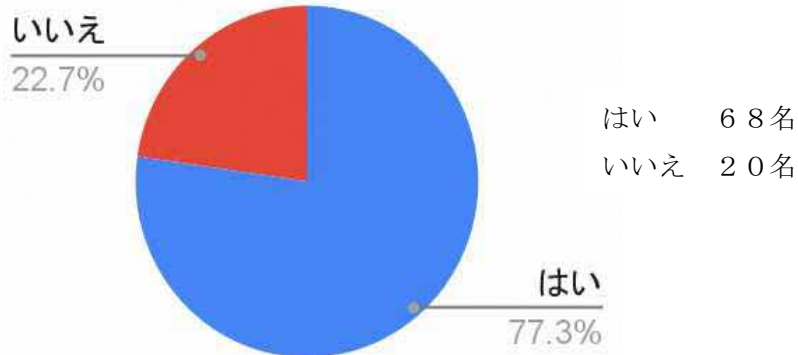
問4 (問2で「はい」と答えた人)さらに分類すると、観光庁が定めた①～⑤のタイプのどのワーケーションに該当しますか。



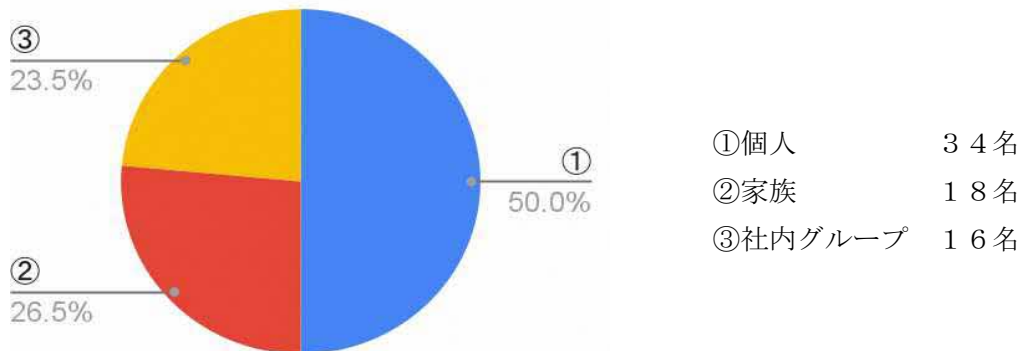
問5 (問2で「はい」と答えた人)ワーケーションの行き先を選定した理由は何ですか。

- ・北海道にて撮影の仕事が入ったため (北海道)
- ・仕事の関係者からのお誘い (福島県、徳島県)
- ・仕事の都合 (東京都八丈島)
- ・会社の持ち物だから (埼玉県飯能市)
- ・会社としてサテライトオフィスがあり、現在、地域通貨の運営や地域企業様のご支援もしているため。(埼玉県飯能市)
- ・Wi-Fiがあったため (静岡県熱海)
- ・会社の意向 (広島県福山市)
- ・仕事のつながり 徳島西阿波エリア (三好市、東みよし町、美馬市)
- ・イベント企画者としてや知人からの誘い (茨城県や徳島県)
- ・仕事先だったため (九州)
- ・仕事の延長 (沖縄県宮古島)
- ・仕事上その土地のことを知っておく必要があるため (沖縄県、栃木県)
- ・観光地としての関心、Airbnbなどでの宿泊施設の選択の多さと利便性 (京都府)
- ・繋がりのある人からの誘い (広島県 宮島)
- ・帰省のついでに、長く滞在しようと思った (長野県)
- ・知り合いが白馬村のゲストハウスに滞在していたため (長野県白馬村)
- ・休暇中でも仕事をしなければならないので、リラックスできる場所として (ベトナム、ポルトガル)

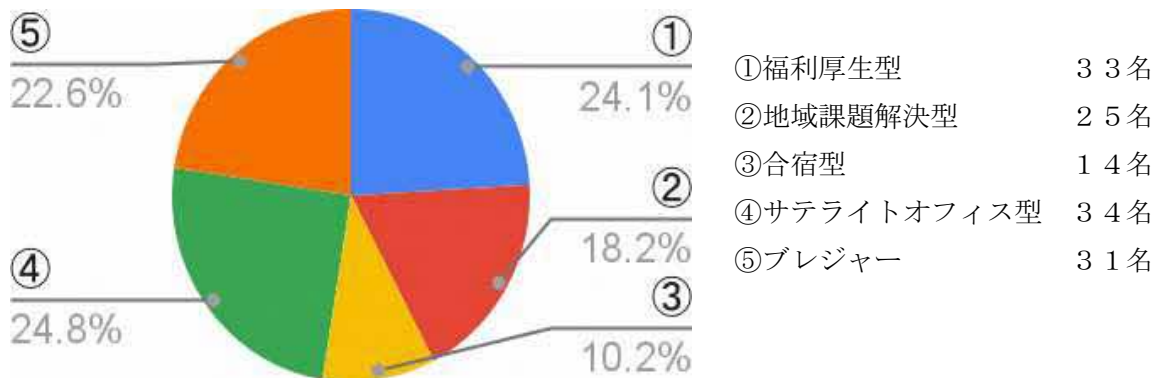
問6 (問2で「いいえ」と答えた人) 会社に制度があればワーケーションに取り組んでみたいですか。



問7 (問2で「いいえ」と答えた人) 誰とワーケーションに行きたいですか。



問8 (問2で「いいえ」と答えた人) どのようなタイプのワーケーションで行きたいですか。



問9 (問6で「はい」と答えた人)どんな場所にワーケーションで行きたいですか。

① 自然・食文化についての言及… 28件

- ・自然・文化が豊か(神奈川県)
- ・温泉があるから(長野県・岐阜県)
- ・やるのであれば、非日常に身を置きたいから。(沖縄などの島)
- ・世界屈指のオーシャンリゾート地(沖縄県)
- ・風光明媚であり、かつ仕事の環境下としても申し分ないため。(石川県)
- ・食べ物が美味しい(北海道) …等

② 個人的嗜好… 18件

- ・行ったことがないため(九州)
- ・生まれも育ちも北海道のため、日本の西側に行くことがほとんどないため。(中四国・九州地方)
- ・土地勘があるから(西日本)
- ・出身が関西であるため(兵庫県、大阪府、京都府)
- ・東日本出身なので、あえて働いたことがない土地で気分を変えて働いてみたい。(西日本全般) …等

③ 仕事関連… 11件

- ・現住所や勤務地の近くで、何かあった時にすぐ戻れるよう近場がいい。(関西付近)
- ・大自然の中、リラックスして仕事をしたいため(自然の多い地域)
- ・素早く気分転換できるため(海山に近いところ)
- ・新しいご縁を作りたい(温泉や山のあるところ)
- ・自治体と民間事業者が連携して、積極的に推進していると思うため(長崎県、和歌山県) …等

問10 (問6で「いいえ」と答えた人)ワーケーションをしたくない理由は何ですか。

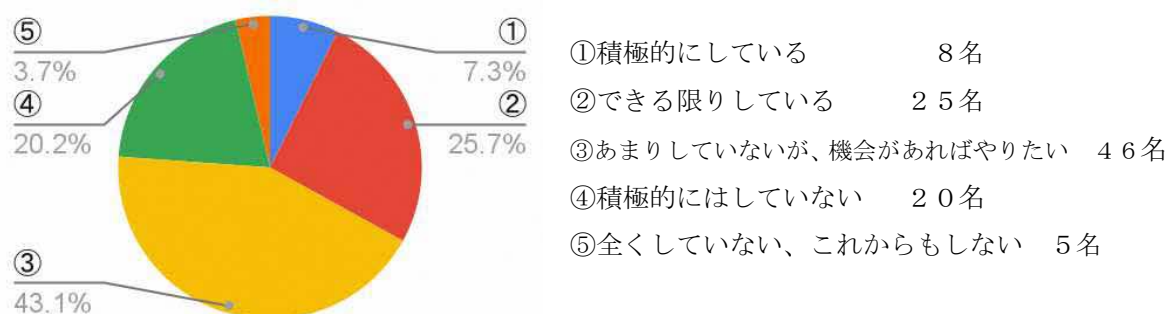
① 仕事の関係上… 8名

- ・企業文化、業務の内容からそぐわないと思われる。
- ・仕事に支障がでそうな為。
- ・業務体制として社内整備されていない。
- ・入社した方が仕事の効率がいい。
- ・自宅に必要機材があるため。 …等

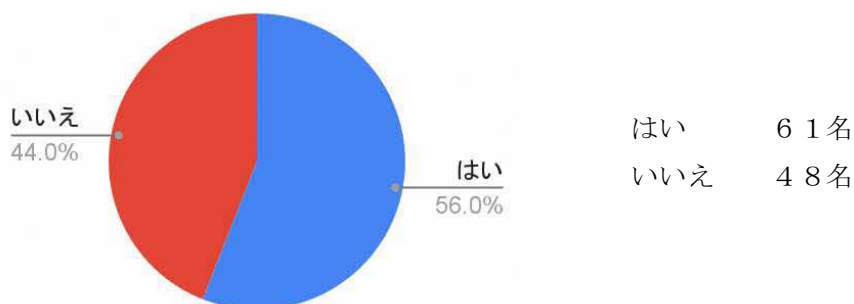
② 個人的な理由… 12名

- ・時間が拘束されるから。
- ・プライベートまで会社の人と過ごしたくない。
- ・興味が無い。
- ・住み慣れた、好きな地元で働いていたいから。
- ・オンとオフは切り替えたいため。 …等

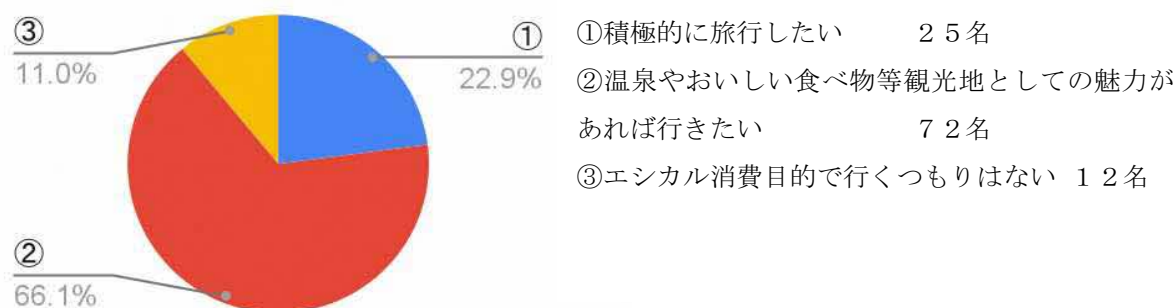
問11 エシカル消費を実践していますか。



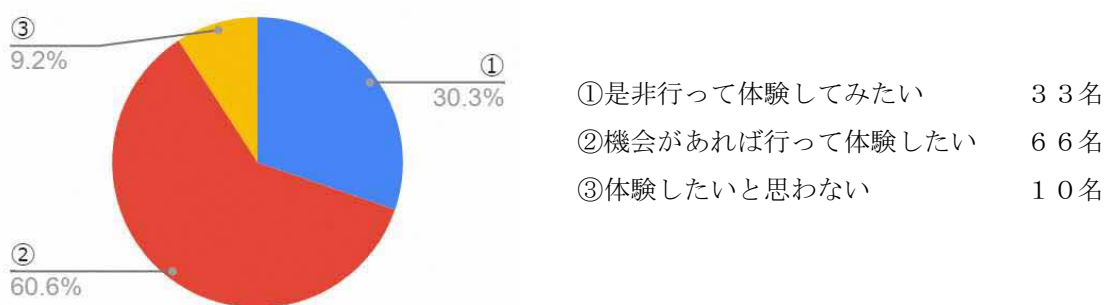
問 12 過疎地域を旅行して、飲食や宿泊、土産物を購入することが過疎地域の応援消費として、エシカル消費に当たることをご存じですか。



問 12 エシカル消費につながるのであれば、過疎地域への観光やワーケーションで旅行し、応援消費をしたいと思いませんか。



問 18 ワーケーションや旅行でにし阿波の農業や生活を体験してみたいですか。



にし阿波エシカルワーケーション モデルコース（例）

企業の社員グループ向け

にし阿波の傾斜地農業体験でチームビルディング

コンセプト

世界農業遺産に認定された、にし阿波の傾斜地農耕システムの農作業体験をする
とともに、地域の農家と交流し、地産地消や循環型農業などのエシカルな暮らしや
文化を学ぶチームビルディングツアー



おすすめ時期 3月～11月

移動手段 



1日目

 観光・体験  ワーク

- 午前 にし阿波へ到着
レンタカーで移動
- 12:00 昼食
道の駅貞光ゆうゆう館
- 13:00  二層うだつの町並みを散策
織本屋、旧永井家庄屋敷等を見学
- 14:30  コワーキングスペースNEDOKOで仕事
又は ミーティング
- 18:00 つるぎの宿岩戸にチェックイン
- 19:00 つるぎの宿岩戸で夕食・宿泊



貞光ゆうゆう館料理






道の駅貞光ゆうゆう館では、徳島の地鶏「阿波尾鶏」や名物「半田そうめん」をはじめ自家製の豆腐やジェラートなど地産地消にこだわり地元の食材を使った新鮮でおいしい料理が味わえる。



NEDOKO

P13 参照

2日目


- 8:00 つるぎの宿岩戸で朝食
- 9:00  鳴滝、土釜、巨樹等を観光
- 10:30  世界農業遺産の集落にある猿飼観光農園を散策
- 12:30 昼食
美馬市の飲食店でランチ
- 14:00 農家民宿 又は
宿交流促進宿泊施設 美村が丘に到着
- 14:30  農作業体験 又は
耕作放棄地の保全作業等のボランティア
- 17:00  農家民宿は夕食の調理体験、
美村が丘はそば打ち体験 又は
- 18:00  研修室でミーティング
宿泊先で夕食・宿泊



猿飼観光農園
世界農業遺産

見晴らしのいい山の宿。
昔ながらの風景や暮らしの中で、季節ごとの農業体験をすることで、日頃忘れかけている自然の恩恵を感じることができる。

3日目

- 8:00 朝食(農家民宿は朝食作り体験)
- 9:00  農家民宿は農業体験・周辺散策、
美村が丘ならマレットゴルフ体験
- 11:00 宿泊先を出発
- 11:30 昼食
美馬市の飲食店
- 午後 にし阿波を出発



農家民宿 中島



マレットゴルフ場

『マレットゴルフって?』
マレットゴルフとは、スティックとボールを使って、決められた打ち出し地点からカップへ、できるだけ少ない打数で入れることを競うスポーツ。ルールもわかりやすく、子供から高齢者まで楽しめる。
お問合せ先/交流促進宿泊施設「美村が丘」
【住所】美馬市脇町宇東大谷18
【電話】0883-52-5650



個人・少人数グループ

※「EarthshipMIMA」での宿泊は2名/1日まで

にし阿波のサステナブルな暮らしを体験する旅

コンセプト



世界農業遺産に認定された循環型農業「傾斜地農耕システム」の体験や日本初のオフグリッド住宅「Earthship MIMA(アースシップミマ)」での宿泊体験、古民家再生による町づくりを行っている「脇町うだつの町並み」等、にし阿波のエシカルな体験ができるワーケーションツアー

おすすめ時期 3月～11月

移動手段 

1日目

 観光・体験  ワーク

- 午前 にし阿波へ到着
レンタカーで移動
- 12:00 昼食
農家レストラン 風和里「世界農業遺産ランチ」
- 13:30 美馬市穴吹町の農家民宿に到着
- 14:00  農業体験(農耕作業、各種定植作業、収穫作業等) 又は  客室やリビングで仕事
- 17:00 農家民宿で夕食
郷土料理の調理、農家の団らんを体験

世界農業遺産認定地域の1つである刈名集落にあり、美しい自然に囲まれた心癒される里山で、刈名産の美味しい野菜をふんだんに使用した彩り鮮やかな料理がいただける。お問合せ先／農家レストラン 風和里
【住所】美馬市穴吹町口山刈名307
【電話】0883-56-0725







農家レストラン 風和里



農業体験

2日目

- 8:00 農家民宿で朝食
- 9:00  農業体験(農耕作業、各種定植作業、収穫作業等) 又は  客室やリビング等ワークスペースで仕事
- 9:00 農家民宿をチェックアウト
- 11:00 「Earthship MIMA」に向かう道中の、美馬市内の飲食店で昼食
- 12:00 夕食・朝食を自炊する場合は、美馬町「道の駅みまの里」、スーパー等で食材を購入
- 15:00  「Earthship MIMA」に到着・施設見学
- 16:00  客室で仕事等
- 18:00 夕食
自炊又は美馬市美馬町内の飲食店
- 20:00 「Earthship MIMA」で宿泊



Earthship MIMA

2018年11月に建設された日本初の「Earthship(公共のインフラを必要としないオフグリッドハウス)」。屋根に設置したソーラーから蓄電した電力を使用し、雨水を貯水・ろ過して家の中の生活水として利用している。

お問合せ先／EarthshipMIMA

【住所】美馬市美馬町栗林1

【宿泊予約】earthshipmima@gmail.com



※宿泊は2名まで/1日

【施設見学のための予約】

(一社)そらの郷(電話:0883-87-8998)

※ご予約された方以外のご来訪はご遠慮ください。

3日目

- 9:00 「Earthship MIMA」で朝食後、美馬市脇町へ
- 9:30 脇町うだつの町並みを散策
- 10:00  美馬市観光交流センターで藍染め(和傘作り)体験 又は  森邸で仕事
- 12:00 昼食
脇町うだつの町並み内の飲食店
- 午後 にし阿波を出発



美馬市観光交流センター 藍染体験

美馬市観光交流センター横の藍染工房では、天然藍の染料を使った藍染め体験ができる。お問合せ先／美馬市観光交流センター
【電話】090-3188-3711
【メール】info@mimakankou.or.jp

ワーキング施設 森邸



P13 参照



ファミリー向け

家族で「にし阿波」の自然と伝統文化に触れる旅 ～三好市・東みよし町～

テーマ

コンセプト リフレッシュしながらも仕事に全集中！
そして家族との思い出づくりにも全集中で楽しむプラン

おすすめ時期 通年

移動手段



1日目

観光・体験 ワーク

午前 新幹線・特急を乗り継ぎ、JR阿波池田駅到着
12:00 昼食

三好市池田町の飲食店
13:30 地域交流拠点施設「真鍋屋」みんなのデスク、
heso campで仕事

ジオガイドツアーで街中散策、
街中の和菓子屋等でおやつを購入

17:00 三好市池田町内の宿泊施設にチェックイン

19:00 三好市池田町の飲食店で夕食

20:00 池田温泉で昔ながらの銭湯体験

【みよしジオガイドツアー】

池田や井川町辻や三野町芝生などのマチにある集落は、吉野川や大断層により作られた大地の上で繁栄しました。特徴的な文化を紐解いていくと、大地の特徴と深く関係して育まれたことに気づかされます。ジオツアーの「ジオ」は日本語で「大地の」という意味です。三好市の人々の暮らしから大地の特徴まで「丸ごと」楽しめるツアー、それがジオツアーです。

お問合せ先/三好市観光協会(電話:0883-76-0877)※3日前までに予約

2日目

7:00 宿泊先で朝食

8:00 レンタカーで祖谷方面へ出発

9:30 祖谷のかずら橋、フォレストアドベンチャー祖谷で
アスレチック体験、祖谷ふれあい公園でモノライダー乗車等

12:00 祖谷のかずら橋周辺で昼食後、宿泊先へ

14:00 昔暮らし体験宿カジヤ祖谷浪漫亭にチェックイン

客室やリビングで仕事

薪割り、羽釜の火おこしと炊飯、

囲炉裏を囲んでの食事、露天の五右衛門風呂の入浴等、

昔の祖谷の暮らしを体験

19:00 宿泊先で夕食



ファミリー向け

家族で「にし阿波」の自然と伝統文化に 触れる旅～美馬市・つるぎ町～

コンセプト 小学生から中学生のお子様連れて、にし阿波の観光や
伝統工芸、アウトドア等の体験をしながら、美馬市と
つるぎ町を巡るツアー

おすすめ時期 4月～10月

移動手段

1日目

観光・体験 ワーク

午前 にし阿波へ到着、レンタカーで移動

12:30 昼食

脇町うだつの町並み周辺の飲食店

13:00 脇町うだつの町並みを散策

14:00 うだつの町並み内のコワーキングスペースで仕事

美馬市観光交流センターで藍染め
和傘作り体験

16:00 うだつの町並みを出発し、道の駅みまの里等で
バーベキューや朝食の食材購入

17:00 四国三郎の郷キャンプ場に到着

18:00 バーベキューの後、コテージに宿泊

2日目

8:00 朝食

9:00 コテージで仕事

吉野川でリバーカヤック体験 又は
吉野川河畔の散歩、公園の遊具や広場で遊ぶ

12:00 四国三郎の郷キャンプ場を出発

12:30 昼食

14:00 土釜、鳴滝、猿飼観光農園を散策 又は
剣山登山

18:00 つるぎ町の宿泊施設で夕食、宿泊

3日目

8:00 宿泊先で朝食

9:00 宿泊先を出発

10:00 三木家住宅・資料館の見学、
木魚屋アメゴ釣り堀でアメゴ釣り等

11:30 昼食 農家レストラン風和里

午後 にし阿波を出発